

J リーガーと海外組のメディア表象の比較 ーサッカー専門誌のインタビュー記事の内容分析ー

A comparison of media representations of J-Leaguers and players on overseas teams:
A content analysis of interview in a soccer magazine

1K08B012-3 安西 葉澄

指導教員 主査 リー・トンプソン先生 副査 石井昌幸先生

【目的】

近年、サッカー日本代表のメンバーを見ると、J リーグから海外クラブチームへ移籍する選手、いわゆる海外組が増加してきている。メディアは、こぞって海外組情報を取り上げ、J リーガー<海外組という不等式が成立しているかのようにも見える。メディアにおける J リーガーと海外組の違いは本当に存在するのだろうか。また、それらの違いが、J リーグの発展に影響を及ぼすということはないだろうか。本研究は、メディア、とりわけサッカー雑誌のインタビュー記事に注目をして、内容分析から、J リーガーと海外組の違いが本当に存在するかを検証することを目的としている。

【仮説】

仮説Ⅰ：サッカー専門誌のインタビュー記事で上げられる割合は、近年になるにつれて、海外組および帰国組が増加する。

仮説Ⅱ：J リーガーと海外組および帰国組で以下のような内容の違いがある。

<J リーガー>プレーやチーム、仲間、試合についての内容、つまりサッカーに関する内容のものが多く、私生活や人生観などサッカー以外のことに關しての内容は、少ない。

<海外組および帰国組>サッカーに関する内容はもちろんのこと、海外での私生活情報や、人生観、生き方、リーダーシップ論、目標設定論などのサッカーに関連しない内容が多い。

【方法】

サッカー専門誌である「週刊サッカーマガジン」(ベースボールマガジン社、対象期間 1994 年 - 2011 年 11 月 29 日号までの計 939 冊) のインタビュー記事を対象とし、内容分析を行った。予備調査の結果、選手分類を J リーガー、海外組、帰国組の 3 項目、記事内容を 7 項目にそれぞれ分類し、コーディングシートに記入をした。以下に、記事内容分類については、詳細項目を示す。

<内容分類>

1:私生活 2:人生観、生き方 3:プレー、試合
4:チーム、仲間 5:練習 6:容姿 7:その他

【結果】

一部例外はあるものの、記事数割合については近年になるにつれて海外組および帰国組が増加傾向にあるという結果となった。また、内容について、私生活、人生観、生き方などに関することは海外組および帰国組に多く、サポーターや地域住民に関するコメントは J リーガーに多くみられた。なお、ほぼ全ての記事でチームや仲間、プレーおよび試合に関する内容が取り上げられていた。

【考察および今後の課題】

記事数割合に関する仮説Ⅰは、多少の増減はあるものの、概ね成立していると言える。また、内容に関する仮説Ⅱについては、チーム、仲間、プレーでの違いは表れなかった。しかし、J リーガーが地域重視の内容が多いこと、海外組および帰国組における私生活や人生観、生き方などについての内容が多いことを証明することができた。また、インタビュー連載以外での単独インタビュー記事は、日本代表選手であることが多かったため、日本代表か否かという観点から新たに分析を行うとさらなる発見があるかもしれない。さらに、「海外組の増加に従い、メディアも優先的に取り上げているから J リーグを盛り上げなくては」などといった認識を持っている選手も複数存在することは、メディアにおける J リーガーと海外組の違いがあることに対するさらなる裏付けとなった。J リーグの試合観客数や収入を増加させ、J リーグの経営を危機的状況に陥らないようにするためには、マネジメントの一環としてメディアという視点を取り入れる必要性は十分に存在するであろう。メディアという観点からのさらなる研究により、J リーグの未来をより輝かせることができるかもしれない。